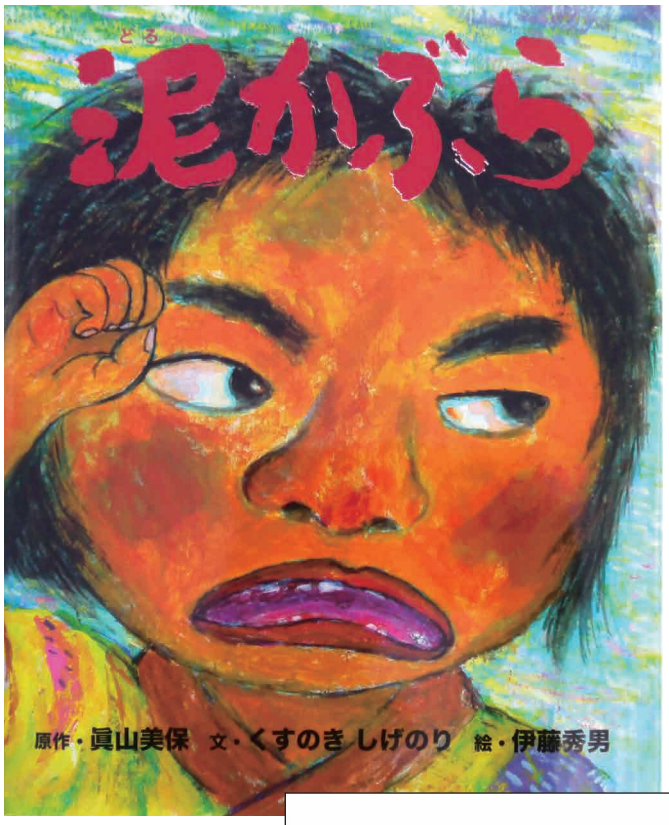
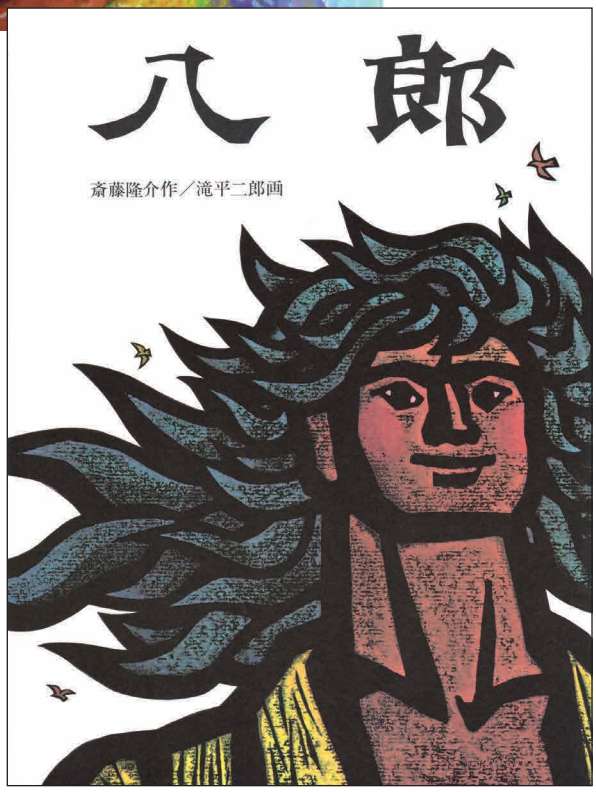
ドラマティックリーディング
『泥かぶら』『八郎』公演用資料
〈中学校・高等学校用〉

絵本『泥かぶら』より　発行：(株) 瑞雲舎





絵本『八郎』より　発行：福音館書店

劇団 新制作座

令和３年度の芸術鑑賞行事は、
この先の新型コロナウィルスの影響を想像することが難しく
不透明なことから検討しづらい事と思います。

一日も早く皆様と笑顔でお会い出来ますように。

一期一会の舞台が届けられる日の為に、
稽古を重ね懸命に学んでまいります。

◆ドラマティックリーディング「泥かぶら」「八郎」

◎ ドラマティックリーディングについて
舞台俳優が全身を使い、ユーモラスで泣ける新たな語り（ドラマティックに物語る）の舞台として誕生し、ピアノの演奏とともに好評を得ております。

会　　場：劇場・ホール・体育館　他

上演時間：第１部「泥かぶら」35分、「八郎」22分　（5分間休憩）
第２部「渡邉灯人ピアノコンサート＆歌のプログラム」25分

対　　象：小学生～一般
第２部は、対象年齢によって異なる交流プログラムご提案いたします。

上 演 料：８万円～お気軽にご相談ください。ご予算に応じ丁寧に対応致します。

観 客 数：30名～500名　**＊少人数の単位で、公演回数を増やしての上演も可能です。**

舞台設営：２時間～２時間30分　片付け撤収45分
会場は、劇場・体育館・講堂・教室まで様々な場所で上演が可能です。
プロジェクターを使用いたしますので暗幕の設備が必要です。

問い合わせ：電　　話：042-661-0001
ｅメール：info@shinseisakuza.com
制作担当：小津和（こづわ）・木村・福島・亀川

◆上演までの流れ

① 公演日程について､劇団の公演スケジュールの実施可能日とご相談させてください。
公演日が既にお決まりでしたら早めにお知らせください。

② 上演料の見積もりと企画書を郵送又はメールさせて頂きます。
制作の担当者がご連絡を差し上げた後ご挨拶に参ります。
体育館公演の場合、下見をお願いしております。（※）
上演が決定した後に契約書を交わします。
第２部の演目について、対象年齢を考えたプログラムの打ち合わせを行います。

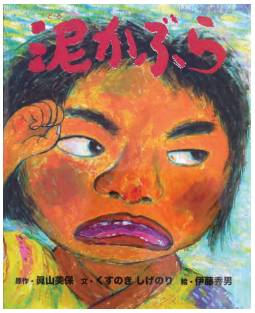
（※会場が劇場の場合）
会場の下見や打ち合わせを劇団の演出部が行います。
公演当日の舞台の進行は、事前に制作と担当の先生とで打ち合わせを行い、劇団の舞台監督が仕込みから終演後の退館まで、責任を持って行います。
会場との打ち合わせは公演日の２ヶ月前までに、舞台監督が会場スタッフと直接又は、電話で行います。
公演当日開演の30分ほど前に５分程度の簡単な調整・確認を行い開演となります。

◆上演料の支払いについて

公演終了後、請求書をお送りします。到着後２週間以内に指定の口座にお振込ください。

泥かぶら

原作：眞山美保
文：くすのきしげのり
　　新制作座 文芸部
画：伊藤秀男
上演時間：35分



絵本『泥かぶら』　発行：(株)瑞雲舎

演劇「泥かぶら」上演回数15000回、1952年の初演以来、全国で巡演を続けた泥かぶらを幼い頃観て忘れられないという方も多く、絵本「泥かぶら」が発刊され新聞に掲載された時、各地から沢山のお電話を頂きました。絵本の読み聞かせの多くの方が朗読されていますが、劇団に読んでほしいと依頼され、ドラマティッククリーディング「泥かぶら」が生まれました。

物語は、幼い野生児「泥かぶら」（泥にまみれたような醜い子の意味）は、親も兄弟も友達もなく孤独に生きていましたが、たった一つ心に秘めた願いがありました。

それは「きれいになりたい」ということ。

顔の造作が整っていることが美しいのでしょうか？痩せていることが？センスのよいファッションでしょうか？

様々な気づきと大きな発見が詰まった「泥かぶら」は、子ども達の心の内側に響く名作です。1人の俳優が全ての登場人物を読む面白さをお楽しみください。

ものがたり

昔、顔が大変醜い少女がいました。あまりの醜さに、人々の嘲笑のまとになり、石を投げられたり、唾を吐きかけられたりして少女の心は日一日とすさみ、粗野で荒々しい子になっていきました。

今日もわけもなく石つぶてを浴びせかけられ、悔しさに荒れ狂っています。そこへ旅の老爺が通りかかり「きれいになりたい」と慟哭する少女に美しくなる方法を教えてくれました。

自分の顔を恥じないこと
どんな時にも、にっこりと笑うこと
人の身になって思うこと

この3つを守れば村一番の美しい人になれるというのです。少女の心は激しく揺れ動きます。　そして・・・

八郎

作：斎藤隆介
画：滝平二郎
上演時間：22分

絵本『八郎』　発行：福音館書店

絵本の「モチモチの木」の名コンビが1967年に発表した処女作がこの「八郎」でした。

当時の斎藤隆介氏は、新制作座の文芸部に在籍し、新制作座の創立者の1人である俳優の草村公宣によって「八郎」は語られ評判を得ておりました。

大きく育った山男の八郎は、小さな少年の涙に寄り添ううちに村人の大切な田畑を飲み込もうとする荒れ狂う海と戦うことになります。

1人は万人のために・・・胸詰まるこの物語は、災害時に体を張って働く人々の懸命な姿と重なり、人間は決して1人では生きていけないのだという根源的なテーマへと結びついていきます。人は自己責任と個人主義が行き過ぎる時、心に孤独という大きな闇が広がり、救いがないと思いつめてしまいがちです。しかし、この物語の持つ弾ける魅力はまさにそこにあります。自分にしかできない事が人には必ずある、そしてあたたかく繋がって生きていこうよと、八郎は呼びかけます。

秋田弁で語りますが、理解不能にならぬよう、方言はマイルドにしております。

ものがたり

昔、秋田のくにに「八郎」という大きな山男がすんでおりました。八郎の胸の奥から、いつも湧き上がってくるのは、「もっと・・・もっとおおきくなりたい！」という強い願いなのでした。

ある日のこと、浜辺で小さな男わらし子と出会った八郎は、田畑をのみこむ大波が迫っていることを知ります。全力で海の水をせき止めようと、八郎は波に立ち向かうのです。その時・・

観客からの声

高校生の感想より

- 朗読と聞いた時、静かで寝る人が多いだろうと思っていましたが、始まると全然違いました。ダイナミックで遠くの席から見てもとても分かりやすかったです。すごい劇でした。
- 「八郎」「泥かぶら」この2つの作品は、人の心に灯をともす・・・その灯りをいつか自分から渡せることができたらいいなと思いました。
- 朗読劇と聞いて「高校生にもなって読み聞かせかよ」と最初はおもっていましたが、原作者の眞山美保さんの世界を新制作座の朗読劇でしか表現できない独特な世界観が見事に合わさって、足を踏み入れたら帰ってこられない不思議な空間が出来上がっていたように感じました。僕だけでなく友達もみんな当初の期待を良い意味で裏切られた！と言っていました。
- 朗読劇がどのようなものか正直しらなかったですが、初めの衝撃はすごいものがありました。全力の読み聞かせは、物語から人間の内面的なところを問いかけられている様で、受験で色々とストレスを感じてしまう僕にとっては非常に良い機会になりました。

中学生の感想より

- とても感動して鳥肌が立つほどでした。小学生の頃読んだ「八郎」の気づかなかった、人を思いやる大切さがあふれていることに改めて感動しました。「泥かぶら」の人に何を言われても負けずに、ただひたすら笑顔でいる姿に、私もいつも笑顔で自分のことを好きになろう思いました。
- 世界中の人が「誰かのために」と動くことが出来たなら、きっと戦争は起きないんだなぁと深く考えることもできる作品でした。
- 自分に足りていないことに気付けました。物語で人生が変わることもあります。
- 内面を磨けばその人自身が輝いて見える・・・。私はそれを学びました。「美しい人」を目指したいと思います。
- 映像を見ているのではないかと思うくらい吸い込まれていくような感じがしました。
- 「八郎」を聞いて、誰にでも使命があるという事を教えてもらいました。僕には何が出来るのか、とても悩んで焦っていたのですが、いつか分かる時が来るのだと思い安心しました。

その他多かった感想

- 朗読劇の鑑賞初めて……………98％
- 演者が凄い・迫力がある……………96％
- 演劇と変わらず感動した……………95％
- また観たい！舞台も観たい！……………90％
- 受験でのストレスで荒んだ心が洗われた。……85％
- 言葉（方言）が分かりにくかった。……………3％